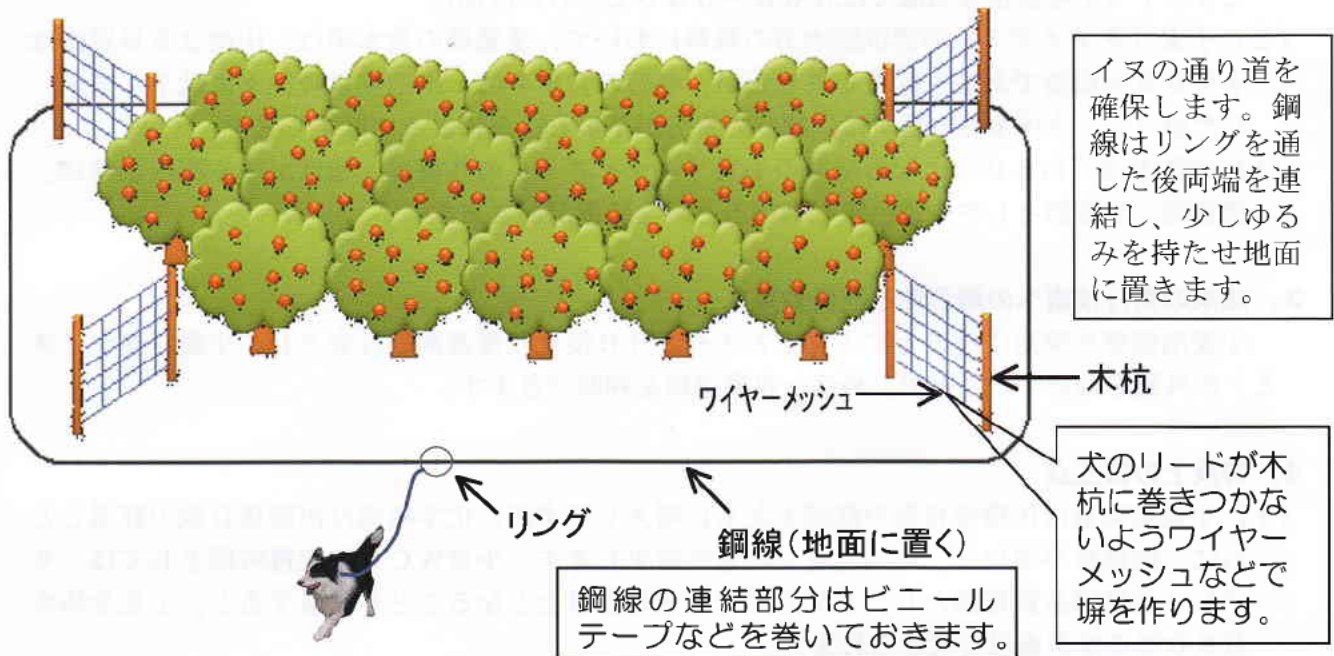


農園をサルの被害から守るための イヌのけい留装置を開発しました

利用対象：農作物の栽培を行っている農家

イヌを利用して農作物のサルによる食害を軽減できます。特に、サルが近づいたことが分かりにくい人里離れた農地等に有効です。



イヌが農地の周囲をグルグル走り回ってサルを追いかめます。グルグル走り回れるポイントは、円状につないだ鋼線を土の上に置くだけなので、杭に連結しないからです。



鋼線とリングの連結状況



杭とワイヤーメッシュの設置状況



イヌが周回する様子

- ・鋼線にリングを通して、杭を通過できるようにします。草などが巻きつかないように管理します。

- ・杭は鉄のパイプなどでも代用できます。また、ワイヤーメッシュもネットなどを使えばより安価です。

- ・イヌはサルを怖がらず向かっていくタイプが適しています。体重も15kg以上の中～大型犬が望ましいです。

1. 背景とこれまでの課題

サルによる農作物への被害は、ネットや電気柵では完全に防げない状況です。一方で、サルに対して威嚇行動を取り、サルによる馴れの少ないイヌを利用してサルの被害を防止しようとする方法が全国に普及してきています。しかし、イヌを利用しようとする場合、イヌを放して威嚇する方法には高度な訓練が必要です。また、イヌを園地の一边に往復運動ができるようにつないでも、サルは他の辺から進入する可能性があります。そこで、特別な訓練を必要とせずイヌが園地を自由に周回できる安価な装置を開発しました。

2. 成果の概要

(1) カンキツ園においてゴールドンリトリバーを使って実証試験を行ったところ、イヌけい留時はサルによる被害が無いことを確認しました。

(2) 装置の設置方法

①イヌが周回するために必要な通り道を確保します。

②イヌを周回させたい園地の外周に図のように1カ所2本の杭を打ちます。次に、イヌのリードが杭に絡み付くのを防止するために、杭の間にワイヤーメッシュ等（幅：リードの長さ程度、高さ：1.5m程度）を設置します。

③鋼線は園地を一周するように多少ゆりみをもたせ地面に置きます。リングは鋼線の両端を連結する前に通し、連結部はリングが通過しやすいようにビニールテープ等を巻きます。

④農地の一边の距離が長い場合は、鋼線のあそびが大きくなるため中間に杭とワイヤーメッシュを追加します。

⑤イヌの首輪をリードでつなぎ、鋼線に通しておいたリングと連結します。リードと首輪の連結には、ヨリを取る金具を取り付けておきます。

(3) 資材費概算

10a当たり17,000円程度かかります。試算に用いた資材（10a当たり）は、鋼線162m、ワイヤーメッシュ10枚、木杭20本、ステンレス針金 20m、ステンレスリング 1個です。木杭やワイヤーメッシュを他の安い資材で作成すれば、より安価に設置できます。

3. 成果の慣行技術への適合性と経済効果

(1) サルが近づいたことが分かりにくい人里離れた農地等に有効です。

(2) 農作物のサルによる食害が軽減できます。

4. 普及上の留意点

(1) イヌの種類は中型犬～大型犬で、サルに威嚇行動をとるイヌが適しています。

(2) イヌをつないでいる時は、近くに必ず日陰と水を確保してください。

(3) サルは日の出から活動するため、被害が予想される場合は早朝からつなぐ必要があります。

(4) イヌ1頭で追い払い可能な面積は、イヌの種類によって変わると考えられます。試験では紀州犬の雑種1頭で23aの面積をカバーできることが確認されています。

(5) サルの人による追い払いと合わせて利用すると効果的です。

お問い合わせ先	紀南果樹研究室 中央農業改良普及センター	市ノ木山浩道、中嶋香織 谷口典生	電話 05979-2-0008 電話 0598-42-6323
参考になる資料	特許：「動物の繋留装置及び農地における動物の繋留構造」（特許番号 4 7 2 4 8 1 3 号）		
研究実施予算	農作物被害を軽減するための包括的な獣害対策技術・手法の確立		